

しょうがっこうをおくる会様

Plan Japan

プラン特別プロジェクト
ネパールにおける教育支援プロジェクト提案書



ネパールの子どもたち

公益財団法人プラン・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル11F

www.plan-japan.org

ファンドレイジング部 平田 泉

TEL: 03-5481-7100 / FAX: 03-5481-6200

Email: hirata@plan-japan.org

このプロジェクトは、ネパール、シンドゥリ活動地域で実施を予定しております。



	ネパール	日本
人口	3,048 万人	12,650 万人
5 歳未満児死亡率(1,000 人当たり)	48 人	3 人
改善された水源を利用する人の比率(%)	89	100
1 人当たりの GNI*(国民総所得)(米ドル)	540	45,180
1 日 1.25 米ドル未満で暮らす人の比率(%)	25	—
小学校の就学率(%) (ユニセフ世界子供白書2011より)	84	100
小学校に入学した生徒が最終学年まで残る率(%)	95	—

「ユニセフ世界子供白書 2013」より

■ プロジェクトの背景

プランは 1978 年にネパールでの活動を開始して以来、首都カトマンズにある国統括事務所と 6 つの現地事務所を拠点として、多岐にわたる地域開発プロジェクトを住民参加のもとで実施しています。シンドゥリは 2011 年に活動を開始した地域です。

ネパールは、標高 8,848 メートルの世界最高峰エベレストから海拔 100 メートルの平地帯まで多様な地理的環境をもつ内陸国です。全人口の 45%は 18 歳以下の子どもで、また同じく 80%が農村部で生活しており、1 日 1.25 米ドル以下で暮らす貧困層は25%に達すると推測されています。頻発するストライキ、道路封鎖、電力・燃料不足、悪天候、低い農業生産高などにより経済状況は芳しくなく、依然としてアジアの後開発国のひとつです。都市部と農村部の間での経済的な格差も拡大していま

す。さらにネパール社会において弱者とされる子ども、女性、ダリットと称されるカースト制度（ヴァルナ・ジャーティ制）の外側にあつて、ヒンドゥー教社会において最も差別されている人々、障がい者、少数民族などは、開発から取り残されている状況です。プラン・ネパールは、これまで活動地域の人々の生活改善のため、教育、家計の安定、子どもの保護と権利の推進、安全な水と衛生の分野で活動を続けてきました。

ネパール東部に位置するシンドゥリ郡は、面積2,491 平方キロメートル、人口は294,621 人(58,270 世帯)で、郡都カマラマイ市および最小行政単位である村落開発委員会 53 委員会から構成されています。地形は北部が山岳地帯、中央部が丘陵地帯、南部は平野部になっています。主たる住民はマジス族およびダヌワール族で、河川での漁業が主な生計手段です。伝統的な価値観が根強く、またアクセスが難しい遠隔地域であるため、開発は遅れており、教育、保健、環境、生活などさまざまな面で問題を抱えています。なかでも教育の問題は深刻です。

カマラマイ市には、40 校以上の公立学校があるものの、そのうち質の高い教育を提供している学校は数校しかありません。カマラマイ市第 7 区にあるシュリー・カリカ学校には、社会的・経済的に困難な状況下に置かれた人々が暮らすコミュニティの、幼稚園から前期中学校*までの子どもたち 241 人が通っています。同校に備わっている 9 教室のうち 5 教室は、1986 年に建設された老朽化が著しい木造の校舎にあります。これらの教室には、十分な備品や教材・図書が備わっておらず、子どもにやさしい学習環境を提供できていません。

また、天候の影響を大きく受ける劣悪な学習環境の中、低学年の児童たちは、安心して授業を受けることができないため、留年をくり返したり、中途退学をする児童が跡を絶ちません。



5 教室が備わった木造校舎の全景。残る 4 教室は、比較的状态の良い校舎にあります(左写真後方)

* ネパールの学校制度は、10+2(テンプラス・ツー)と呼ばれる5・3・2・2 制で、小学校5 年間、中学校(前期中等教育)3 年間、中期中学校 2 年間、後期中学校 2 年間から成る。



(上2枚、下1枚) 備品や教材が備わっていない木製の簡素な木造校舎で授業を受けている子どもたち

■ プロジェクトの概要

本プロジェクトでは、シンドゥリ郡カマラマイ市第7区にあるシュリー・カリカ学校に低学年用の校舎(4教室)を建設し、教材や備品の支給、給水設備の設置を行うことで、同校の学習環境の改善を目指します。

■ 対象

同校に通う幼稚園児、小学校1年生、2年生、3年生の児童99人

児童数内訳

学年	児童数
幼稚園	16人
1年生	35人
2年生	21人
3年生	27人
4年生	29人
5年生	28人
6年生	26人
7年生	37人
8年生	22人
合計	241人

■ プロジェクト実施期間

1年間

(なお、天候などの現地事情によって活動期間が前後する場合があります)。

■ プロジェクト目標

シュリー・カリカ学校に、備品や教材が整った校舎 1 棟(4 教室)を建設し、既存の教室への読書コーナーの設置、安全な飲料水を提供する給水設備の建設を行うことで、子どもたちにとって良好な学習環境を整備し、子どもたちの学習意欲の向上を図ります。最終的には、就学率を高め、中途退学率を減少させて、地域の義務教育の充実を図ります。

■ 活動

- 4 教室を備えた校舎 1 棟の建設
- 教材の支給
- 4 教室への読書コーナーの設置
- 年齢に適したサイズの机付きいすの支給
- 給水設備の設置

■ 期待される成果

■ 効果

十分な教育サービスが行き届かない、社会から取り残された最も弱い立場の人々が多く暮らす地域の学校設備を整備することで、施設や教育機会の不足を解消し、子どもたちに、それぞれの年齢に合った質の高い適切な教育を行えるようになります。これにより、子どもたちは自らの潜在能力を十分に発揮することができるようになり、将来的に地域の発展に貢献する人材の育成につながります。

このプロジェクトの実現は、MDGs(国連ミレニアム開発目標)[†]目標2:初等教育の完全普及の達成に貢献します。

■ 持続性

プロジェクト完了後、完成した教室や給水設備を維持管理する役割は、学校管理委員会および同校の教師、地元のリーダー、保護者たちが責任を持って担います。コミュニティの人々は主体的に内外の資源を活用して、継続的に学校の維持管理を行う体制を整えます。

■ プロジェクトの実施方法

プランが行うプロジェクトは、住民参加型です。教師や、児童・生徒の保護者をはじめとする地域の人々は、計画立案から、実施、進捗管理、評価などプロジェクトのすべての段階に関わり、プロジェクトを中心となって進める役割を担います。地域の人々が計画段階から参加することによって、プロジェクトが自分たちのものであるという意識が強まり、プロジェクト完了後も地域の人々によってこの施設が効果的に運営され、プロジェクトによる成果が継続していく体制が出来上がります。

プランは、地域の人々がプロジェクトを管理運営するために必要なノウハウの講習や、専門家による保健・医療・教育など各分野での専門的能力向上トレーニングなどを並行して行うことで側面から全体を支えます。

[†] 2000年国連で採択された「国連ミレニアム宣言」の一部で、世界共通の問題に地球規模で取り組むため、2015年までに達成すべき目標として設定されました。全8項目には極度の貧困と飢餓の撲滅、初等教育の完全普及などが含まれており、プランの目標(Vision)や使命(Mission)と重なります。プランもMDGsに呼応した形で活動を続けています。

■ プロジェクト成果のご報告

プロジェクト完了後、報告書を作成し、写真を添えてご報告いたします。

■ 記念プレート

完成した校舎には、ご指定のお名前などを入れたプレートをお付けしております。

ご希望の場合は、お気軽にお申し出ください。